

# 令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	253	学校名	仙台市立南光台東中学校	校長名	伊藤 浩太郎
------	-----	-----	-------------	-----	--------

- 1 取組のタイトル, テーマ  
ごみの分別と有機物無機物



- 2 取組の紹介  
1・2年時理科の授業で扱う有機物無機物と合わせて、ごみの分別について調べる。
- 3 取組の成果 (児童生徒の変容)

有機物・無機物とは何かを1年生の理科の授業で扱います。また、二酸化炭素の構成元素である炭素、酸素については2年生の理科の授業で扱います。

1年生には燃えないゴミと燃えるゴミについて、何が燃えるのか、燃えたら何が出るのかというものを授業で扱ったのち、燃えるゴミと燃えないゴミの分別をどうすればよいか理科的な観点をもって調べさせました。有機物には炭素が含まれ、燃えると二酸化炭素が出ると学び、そこから地球温暖化と関連付けて考える生徒もいました。最初は燃えれば燃えるゴミ、燃えなければ燃えないゴミという意見を持つ生徒もいましたが、有害物質の排出があることも調べる中で見付き、ごみの分別の大切さや必要性を学ぶことができました。

2年生は、1年生の時よりももう一步踏み出した、二酸化炭素の構成元素について学びました。また、温室効果ガスについても学び、地球温暖化について詳しく知ることができました。当初は地球温暖化について、地球が温かくなり氷が溶けて海面上昇する、異常気象が起こるといったイメージでした。しかし、授業を追うごとに二酸化炭素の構成元素である炭素は有機物であり、有機物を燃やすとこの炭素が酸素と結びついて二酸化炭素になる、だから有機物を燃やすと温室効果ガスが出るといった1年時と結び付けた考えができるようになりました。また、発展的な内容としてオゾンの構成についても授業内で扱い、メタンガスがオゾン層の破壊につながることも教えることができました。環境について意識が高まったように感じました。

さらに、2年生の職場体験活動で泉環境事業所に3日間の職場体験にいった生徒もいました。その生徒の感想やまとめの中で、今後はごみの分別をしっかりとしようと思った、粗大ごみの回収は大変だから絶対にものをその辺に捨てたりしてはいけないと思う、ごみが落ちていたら拾うか、環境局に連絡したいなどといった言葉が見られました。体験したからこそ新たな考えを持てた生徒に感動しました。それを1年生も含めた発表会の中でプレゼンテーションを用いて発表を行いました。自分の体験や感想を生々の声をもって他の生徒に伝えることができ、聞いている生徒にもその大切さが伝わったように感じます。

学習したことも受けながら、校内では、「ごみの分別」や「各教室への花の設置」などの取組を進めています。従来から取り組んでいたことですが、以前よりも生徒たちの環境問題への興味・関心が高まっているようです。引き続き環境問題について生徒が考え、実践に移していく場を設けたいと思います。